

—未来の公共交通について考える—

固企画財政課 TEL 22-6825

山県市地域公共交通の現状について

現在、山県市内を運行しているバス路線のうち、岐北厚生病院よりも北側を運行する岐北線、岐北線神崎系統、岐阜板取線、ハーバス大桑線、ハーバス伊自良線、乾乗合タクシーは、自主運行バス路線です。令和元年度は、年間約1億6,600万円の運行経費がかかっており、そのうち約9,500万円を市が負担しています。

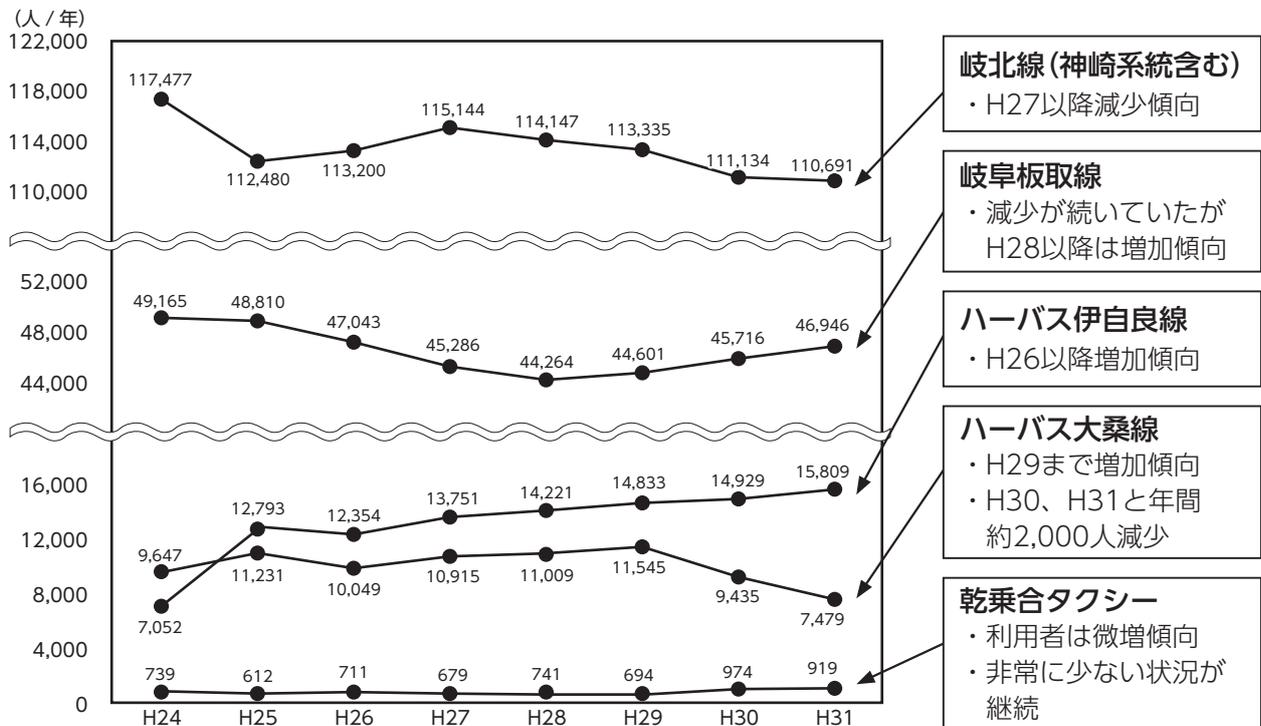
運行経費は、人件費や燃料費の上昇などで年々増加し、今後も増加していくと想定されるため、現状程度のサービスを維持するにも、市の負担が増加する可能性が高くなっています。

一方、バスの利用者数は一部の路線を除いて近年減少傾向にあります。

路線別運行経費(令和元年度)

路線名	運行経費(千円)	利用者1人あたり(円)
岐北線(神崎系統含む)	89,058	805
岐阜板取線	32,600	694
ハーバス大桑線	17,850	2,387
ハーバス伊自良線	21,587	1,365
乾乗合タクシー	5,407	5,884
計	166,502	916

■バスの年間利用者数の推移



山県市地域公共交通の再編について

山県市では、バスターミナルを核としたまちづくりを目指して、平成30年1月に「山県市地域公共交通網形成計画」を策定しました。

この計画では、より市内の公共交通を充実させるため、美山地域デマンド型交通、ハーバス岐大病院線、市街地巡回線の3つの新規路線運行を計画しています。

市内公共交通網の再編は、バスターミナル開設後に行う予定ですが、新規路線については、平成30年度と令和元年度の実証実験結果を踏まえ、市民の皆さんの意見を聴きながら実施に向けて検討を進めていきます。

路線別運行経費(路線再編後試算)

路線名	運行経費(千円)	利用者1人あたり(円)
岐北線	73,307	735
岐阜板取線	32,600	694
ハーバス大桑線	20,306	2,715
ハーバス伊自良線	18,217	1,518
美山地域デマンド型交通	17,352	1,770
ハーバス岐大病院線	17,363	1,887
市街地巡回線	17,132	1,708
計	196,277	1,006

※令和2年度第2回公共交通会議の資料による試算です。今後、路線再編の内容により変更となる可能性があります。

新規路線(案)の概要・実証実験の結果

①ハーバス岐大病院線

- バスターミナルから伊自良支所を經由し、岐阜大学病院まで運行します。
- 岐阜大学病院への通院・お見舞いに利用できます。また、病院で岐阜バスに乗り継ぐことで、岐阜駅方面への移動や忠節橋通り沿いの高校への通学、買い物などにも利用できます。

実証実験は1カ月間無料で実施し、平成30年度は772人が、令和元年度では362人が利用し、平成30年度に比べ、半減しました。

②市街地巡回線

- バスターミナルを起終点とし、高富・富岡地区内の医療施設や商業施設、公共施設などを經由します。
- 自治会ごとにバス停を設置することで、自宅近くからバスに乗車できます。

平成30年度実証実験(運賃無料、1カ月間) 利用者数732人

ルート別 北東157人、南東288人、北西147人、南西66人、西74人

令和元年度実証実験(運賃無料、1カ月間) 利用者数836人

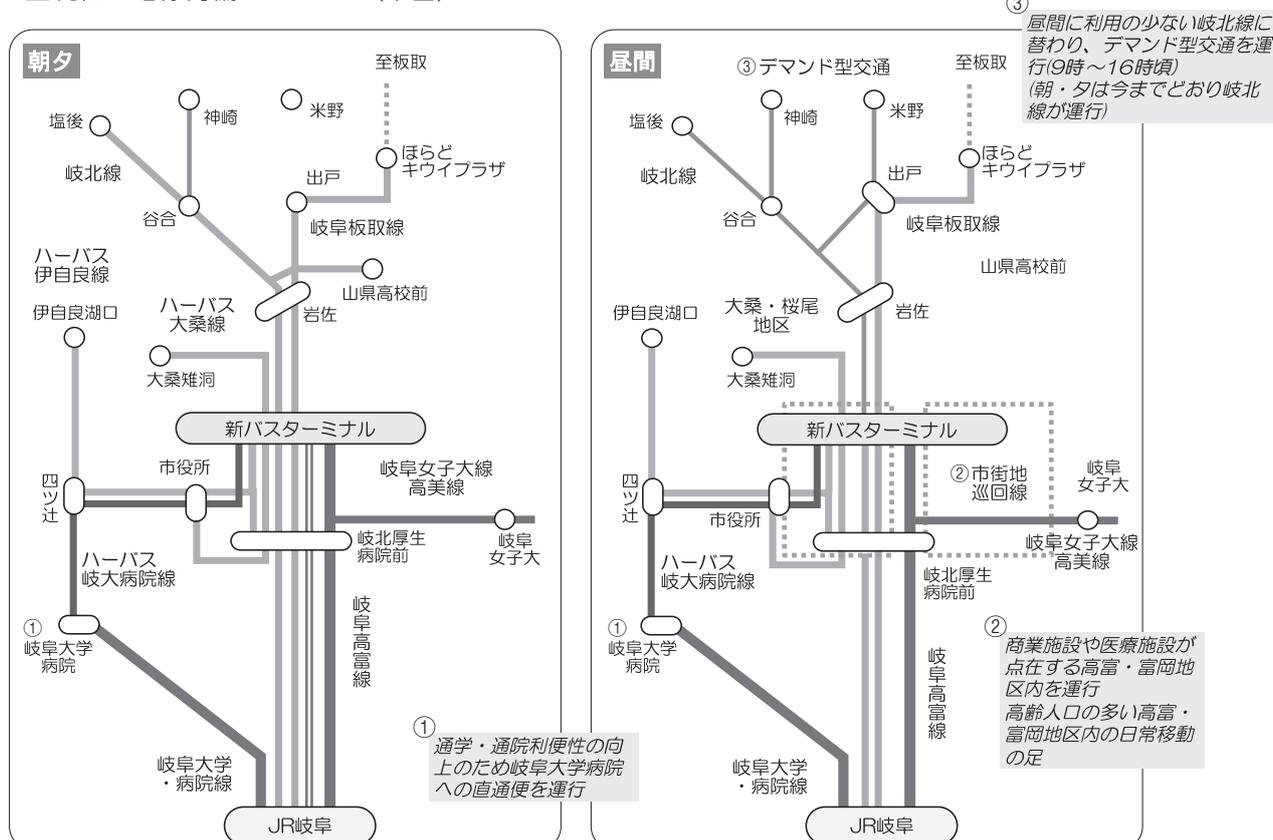
ルート別 南・東580人、北122人、西134人

③美山地域デマンド型交通(デマンド型交通)

- 利用には、事前登録と予約の電話が必要です。
- 事前登録によって登録者と相談の上、乗降場所を決定するため、自宅近くでバスに乗降できます。
- 利用者の少ない岐北線の9時～16時頃の昼間の便と岐北線神崎系統、乾乗合タクシーの代替として、美山地域からバスターミナルまで運行する予定です。

実証実験は無料で実施し、平成30年度では206人が利用者登録し、1カ月間で638人が、令和元年度では232人が利用者登録し、1カ月間で315人が利用しました。平成30年度と比べ、半減しました。

■現在の路線再編のイメージ(平日)



※最新のバス利用状況や実証実験結果を踏まえて、現在検討中の路線再編イメージです。地域公共交通網形成計画に記載する再編イメージとは一部異なります。